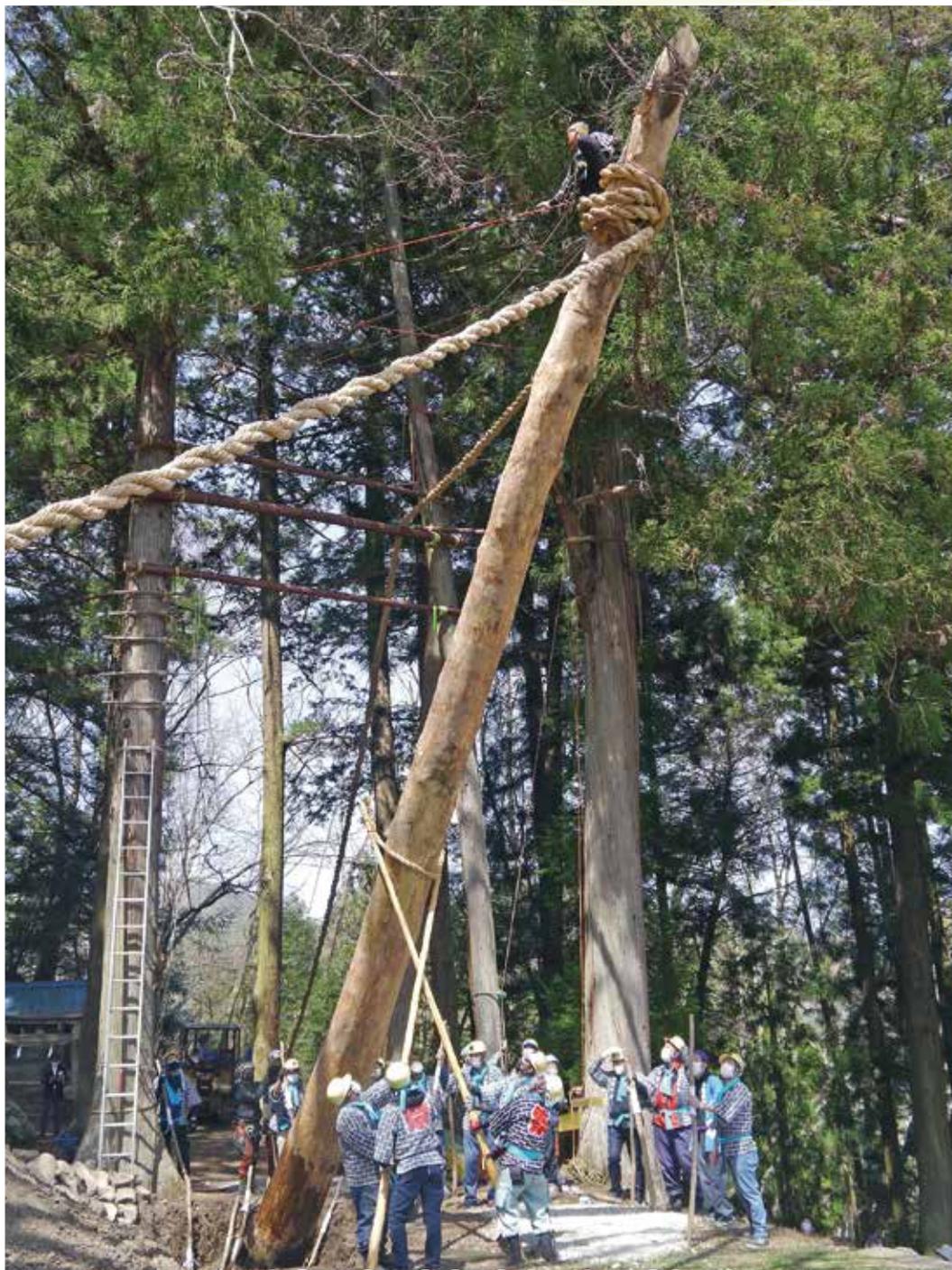


2022年6月16日発行

事務所 武石地域総合センター内  
TEL:0268-85-2511  
<https://www.s-takeshi.jp>  
印刷 中澤印刷株式会社



## 子檀嶺神社御柱祭

子檀嶺神社御柱祭が4月10日(日)に執り行われました。コロナウイルス警戒レベル5ということで、御柱曳行・建御柱は人の接触をできるだけ避けるため重機を使い、おねり行列奉納は中止となりました。

この日、桜はまだ1分から3分咲きでしたが晴

天に恵まれ5月末の暑さとなりました。関係者の皆さん200人ほどが集まった出発式では北沢武御柱祭実行委員長(氏子総代会長)と来賓の土屋陽一市長のあいさつの後、鈴木三千夫きやりがしら木遣頭の「さあさ、皆さんお願いだ!」の音頭により(株)小山林産のバックホーに引かれ、艇子方の操作を受けながら御柱が動き出しました。

中ノ橋を越え大鳥居をくぐって順調に進み、二の鳥居からは畑の急な畦畔の難所を登り、建所の場所まで引き上げられました。

ここで、先日余里でよ撚り上げた引き綱が取りつけられ、建御柱となります。木遣頭が乗った御柱がゆっくりと建てられていきます。今回の御柱は42尺(約13m)、その先端に木遣頭が乗っており、観客が固唾かたずをのんで見守る中、正午に御柱が垂直に建てられま

した。最後に御柱の上の木遣頭の音頭で「地域の繁栄、疫病の退散、世界の平和を祈念して」万歳が三唱されました。

今回の御柱は、コロナ蔓延やウクライナの戦争など大変な世界情勢の中で行われましたが、次回は平和な世の中でお祭りを迎えたいものですね。

# 住みよい武石をつくる会 2021年度総括と2022年度事業計画

通常4月は、住みよい武石をつくる会定期総会を開催しますが、新型コロナウイルス感染の警戒レベルが5と高いため総会を行わず、つくる会規約第23条第1項第4号の規定により正副部長などで構成する運営委員会において、2021年度事業報告・決算、2022年度事業計画・予算などを審議決定しました。運営委員会は、4月27日夜武石総合センターにおいて開催し、この他一部規約の改正も行いました。

運営委員会による決定事項についてはつくる会委員に配布し、書面議決によりすべて原案通り決定されました。

## (1) 2021年度事業報告、決算

### ア 2021年度事業

コロナウイルスで活動が制限される状況が続いているため、集まる人の数や回数を制限するなど工夫しながら活動してきました。会は話し合いや相談が活動の原点であり、地域活性化事業は人が集まる行事が活動の主であるため、大変苦しい活動となりましたが、会の自主事業のほか、他団体との協働・協力、調査や研修への参加など次のような事業を実施しました。

- ・健康ウォーキング(2回)
- ・たけしカルタ歴史さんぽみち(2回)
- ・道路環境クリーン大作戦(県道沿い草刈り)
- ・武石八景案内看板設置(2か所)
- ・農産物直販の取り組み実験
- ・松くい虫防除事業の参加・協力
- ・移住・空き家対策研究会
- ・塩川(丸子地区の高齢者交流拠点)の視察
- ・福祉講演会

その他サテライト市長室や地域再生コンサルタントとの意見交換、年6回の広報発行、エリアトーク事業をおこないました。

### イ 2021年度つくる会一般会計の決算概要

歳入総額	3,152,036円
歳出総額	3,015,679円
差引	136,357円

- ・歳入は、市からの交付金3,015,679円、前年度繰越金136,084円などです。

- ・歳出の主なものは、つくる会の委員・役員手当567,000円、事務職員賃金1,195,890円、看板材料等原材料費303,364円、インターネット接続費53,152円、サーバー等使用料181,800円、広報印刷費516,000円等です。

### ウ 2021年度無線情報システム 特別会計概要

エリアトークの世帯加入率は75%、放送回数は1,114回となっています。歳入4,063,892円、歳出3,799,472円となり、差引264,420円は次年度繰越金となります。

- ・歳入内訳 加入者負担金3,866,000千円(1台・年4,000円)、有料放送手数料40,800円、前年度繰越金152,065円などです。
- ・歳出内訳 アナウンサー賃金612,494円、中継局等電話料277,018円、設備器具保険料53,660円、器具更新のための積立金2,800,000円などとなっています。

## (2) 2022年度事業計画・予算

ア 2022年度は、武石まちづくり計画に基づく次のような事業を計画していきます。

- ・熊沢峠登山
- ・武石の縁が輪事業の運営支援
- ・地域農産物供給実証実験
- ・武石夏祭り参加
- ・健康ウォーキング

- ・たけしカルタ歴史さんぽみち
- ・空き家対策・移住交流の研究
- ・高齢者居場所作りの研究
- ・武石八景看板設置
- ・広報、ホームページ、エリアトークの充実

**イ 一般会計の予算**は、歳入歳出とも前年度当初予算とほぼ同額の3,239千円で、歳入は市の交付金が3,091千円、歳出内容は前年度とほぼ同じとなっています。

**ウ エリアトーク事業**は、予算総額は歳入・歳出 4,111千円。内訳は

- ・歳入は、加入者負担金が3,800千円、前年度繰越金が 264 千円。
- ・歳出は、人件費、通信費などの運営費が1,422千円、設備更新の積立金が2,500千円などとなっています。

### (3) 規約の一部改正

武石地域自治センターの移転改築にともない、つくる会事務所の位置を、武石地域総合センター内に移転するというものです。

## 空き家を活用しませんか!

人口減少と高齢化が進み武石地域でも空き家が増えています。上田市の調査では、武石地域に157棟の空き家があります。愛着はあるけれどこれから使う予定のない家は、持ち主の負担ともなっています。一方で、田舎で子育てやリモートワークで仕事、定年後に田舎暮らしをしたいなど、都市部から地方への移住を考えている人も増えています。人口の減少による地域の衰退を防ぐため、移住者の受け入れは武石地域の大きな課題です。

上田市には、この「空き家を売りたい、貸したい人」と「空き家を利用したい人」を仲介する「空き家バンク」の制度があり、武石地域でもこれまでに6件の方の移住が実現していて有効な制度といえます。

この制度の説明会が下記により開催されます。子供や兄弟姉妹、親戚が集まるお盆の時期に、我が家の空き家や持ち家の将来をどうするか考えてみませんか。

**日時** 8月14日(日) 午後  
**場所** 武石地域総合センター 3階大会議室  
**対象者** 空き家の持ち主や関係者  
**内容** 空き家バンクの制度説明、活用事例の紹介、登録の方法など  
 (詳細は後日、上田市広報・エリアトーク等でお知らせします。)  
**問い合わせ先** 上田市移住交流推進課  
 TEL 0268-71-6734

## 武石地域協議会委員が改選

4月20日、新しい武石地域協議会委員(20名、任期2年)が決まりました。委員は武石地域の各種団体からの推薦や公募などを受け市長が委嘱したものです。地域協議会は、市長の諮問機関であり、また市長に意見具申できる機関として、地域の諸問題に対応することになります。

委嘱式の後の第1回目の会議で互選により、協議会長には金井修一氏、副会長には金子るり子氏(再任)が選出されました。

### 金井 修一 新地域協議会長あいさつ

平成18年度、上田市合併後に設置された「地域協議会」も第9期目を迎え、武石地域の有機的な発展につながる「分権型自治」の実現に向けた体制づくりが着実に進められてきました。

近年の協議会では

- ・雲溪荘の存続、今後のあり方
- ・公民館図書室および学習室の運用

などの議論がされてきました。

今年度からは、あらたに武石地域の「過疎地域指定による持続的発展計画の策定」が進められることとなりました。地域の意見を反映させ

ながら議会の議決を経た後、過疎債等を活用した人口減少対策が講じられるものと期待されています。

これまでの議論や提言を更に前進させるべく、20名の委員の皆さんとともに、行政当局の施策が有効に機能し、武石地域の着実な発展につながればと考えております。

どうぞよろしくお願い致します。



## ハートフルガーデンオープン

### 武石風土つなぎ隊

4月29日(金、祭日) JA武石支所、柳沢そろばん教室周辺を会場にハートフルガーデンが開催され、大勢の人でにぎわいました。焼そば、焼団子等の出店、もったいない市などのほか、大きなピザ釜が据え付けられ1枚500円で買った生地を焼いて食べるコーナーや腹話術などの催しに人だかりがしていました。

秋の仮装大賞とともにすっかり春の地域活性イベントとなった行事には、長野大学生など多くのボランティアが運営スタッフに加わり盛り上げていました。



## 今年是人出が増えてきました

### 余里 花桃の里

長野県のコロナ警戒レベルは5とまだ高いものの、屋外を歩くのは感染リスクも低く健康にもよいとあって、余里の花桃祭りも人出が増えました。

遠くからの福祉送迎車両も多く見られ、お出かけの不自由な人にとっても絶好の気分転換サービスになっているようです。丸子農産物直売所「あさつゆ」も花桃の帰りに寄ったという人が多かったそうです。



## 下本入茂沢川沿いに桜植樹

4月28日(木) 下本入里山の会の皆さんがオオヤマザクラ、ベニヤマザクラ、ヤマボウシなど30本を植樹しました。川沿いで植穴を掘るのも石が多く、根付くように土も運び入れるなど大変な作業でした。



会では茂沢川沿いに25年ほど前から桜などを植栽してきていて、約800m、1haを毎年3回草刈りをしているとのこと。

## ジャガイモを蒔きました

つくる会産業経済部会では、農産物の直販の実験をするため、4月23日(土) 下本入児玉卓文さんの畑を借りて6kgのジャガイモの種芋を蒔きました。



これに合わせ、農業体験をしてほしいとして小学生にも参加を呼び掛けたところ5家族が参加し、丁寧に種芋を並べ土をかけていきました。

また部会では5月22日(日)にジャガイモ畑の隣に、トウモロコシの蒔き付けも行いました。ジャガイモ、トウモロコシともに、親子ミニ収穫祭をし、武石夏祭りのイベントに使う予定です。

## 地域のイベント&お知らせ

### 「美ヶ原を歩こう！」

～思い出の丘から自然保護センターまで  
アルプスを眺めながら歩こう～

- ・日 時 7月16日(土)
- ・主 催 健康・福祉・体育部会
- ・申込み 住みよい武石をつくる会  
TEL: 85-2511



# 第13回 たけし歴史さんぽ道

## 館城の主は誰？ どうなったの？

郷土史家 児玉卓文



昭和15年の館城跡(黄色線の中)

明治27年、堀之内の小山真太郎さんは『武石沿革史』で、武石城は「永和元年(1375)に大井孫五郎長信が築いた」との伝承を紹介し、大正11年、息子の真夫さんは『小泉郡史』で、『信濃細石』に書かれた「大永年間(1521～27)に大井大和守信廣が構えた」との説を加えました。昭和28年、上田小泉誌編さん会の招きで武石村を調査された一志茂樹さん(のちの信濃史学会会長)は、調査後の講演で初めて、館と城下町の構造を解説しました。

小沢根出身の桜井松夫さんは、昭和55年の『上田小泉誌』、さらに平成元年の『武石村誌』の中で、佐久地方の大井氏とは異なる武田氏系の大井氏が、南北朝後半期に恩賞として武石を領有し、堀之内にいた前領主を脇に寄せ、しばらくのちの15世紀中頃、大和守を称する大井信丁が館(大和守屋敷)を構えたと考えました。そして大井氏の武石郷支配は、武田信玄が鳥屋城続いて塩田城を落城させて村上義清を信濃から追い、川中島の戦いの序章となる天文22年(1553)まで続いたと推定しました。

大井氏は武田氏の家臣(信州先方衆)となり武石郷を拝領して依然として支配しました。『甲陽軍鑑』の「武田法性院信玄公御代惣人数之事」は次のように記しています。

### 信州先方衆

- ・真田源太左衛門 旗「色」黒四方 二百騎
- ・真田兵部 五十騎 ・芦田(下野) 百五十騎
- ・まりこ 三十騎 ・たけし 三十騎

「第三次川中島合戦」が戦われた弘治3年(1557)、信玄は武石大井氏らに長野盆地の西山地方の備えを命じています(かやつか・三枚をつそ・口あきは地名)。

### (信玄朱印) 条目

- 一 かやつか芦田、三枚をつそ武石、口あき依田善次、てつ塚青飯、いたて日向右、此の如き事
- 一 芦田人衆より六七人あて、三枚をつそへ番衆加うべき事

(以下二条略)

七月十七日

芦田五郎兵衛尉殿

丸子善次殿

武石左馬助殿

武石大井氏は丸子

氏とともに芦田氏のもとに一つの軍団(合備え)を形成したと考えられます。天正8年(1580)3月1日、大井竹葉斎正棟(左馬之助?)は芦田信蕃・丸子善次とともに、高野山蓮華定院と領民が登山した際の宿坊契約をしています。この時、芦田信蕃は武田氏の対徳川最前線の駿河田中城(静岡県藤枝市)の城番でしたから、大井氏も丸子氏とともに守備についていたのかも知れません。

天正10年(1582)3月武田氏が滅び、6月信長が本能寺に倒れてのち東信濃は、徳川氏・北条氏・上杉氏が勢力を争う地となりました。真田昌幸は本能寺の変直後は上杉氏に、7月は北条氏、そして9月には徳川氏に帰属しますが、10月に真田氏支配の西上州は北条領、信濃と甲斐は徳川領とすることで徳川と北条が和睦し、徳川氏は東信濃を服属させようとする中で、昌幸は自力で小泉郡全域の支配を目論みます。

天正11年(1583)1月24日、家康は小泉の様子を知らせてきた昌幸の弟に次のような書状を出しました。

内々にそちらの様子を心もとなく思っていたところ、竹石(武石)・丸子・和田・大門・内村・長窪などが逆心を企てているとのこと。雪が消えたらきっと出陣し、凶徒どもを退治するつもりだ、安心してほしい、なお、詳しいことは大久保新十郎が伝える。

芦田氏は早くに徳川氏にくみしましたが、武石氏は北条方として依田窪のリーダーのようです。昌幸は閏1月、丸子あたりに集結したこの勢力と単独で合戦し切り従えました。周辺の市町村誌などはこの時武石大井氏は滅んだとしています。しかし、堀之内の金子新十郎さんは、明治期の自書『古事証見聞雑書記』に次のように記しています。

民部允(正棟)は天正10年6月18日武石で病死した。長男の武石大井玄太は真田氏に従い本村で世話料を請け取っていた。(略)武石殿は藩主が仙石氏に替わった元和8年から20有余年本村に住居があり、寛永2年9月17日に病死した。玄太の長男大井孫三郎源信吉は、徳川家光公に取り立てられて旗本となり、寛文6年8月23日に江戸で病死した。この事柄が信廣寺への手紙に書いてあり、その後の三代の手紙も寺にある。

続く

武石を盛り上げる  
人々グループ紹介

# 武石の人々 団体

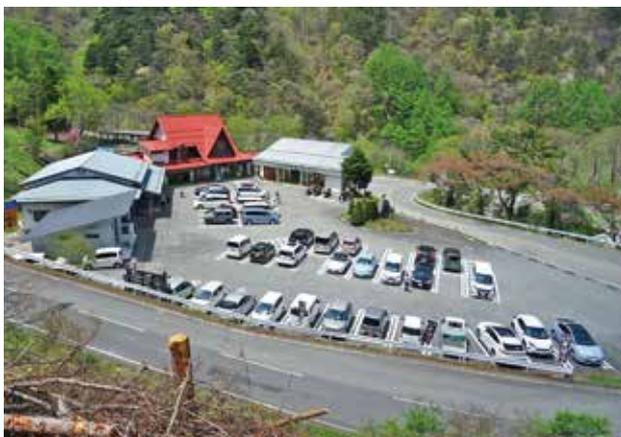


武石観光センター

支配人 西入 浩二さん

**今**年5月の大型連休、武石観光センターには多くの観光客が訪れていました。「駐車場が県外ナンバーでほぼ満杯になるぐらいで、久しぶりの賑わいになりました」と支配人の西入浩二さんは笑顔で話していました。

武石観光センターは、食事処「棠栗」、お土産売店、釣堀、棠栗キャンプ場を運営しており、令和3年度には全施設を合わせて約8,500人の利用客があったそうです。コロナ禍での対策方法や知識の広まり、またマスク着用ルールの緩和などにより、車で外出する家族やグループが増えて来ており、令和4年度はコロナ前の7～8割まで回復するのではないかと今後の客足に期待を寄せています。



観光客で賑わう大型連休(令和4年5月5日)

武石観光センターは、別荘地や美ヶ原への東側の入口として開発が進む棠栗地域の中心的な施設として昭和46年(1971)6月に完成しました。一時事業は中断しましたが、昭和53年4月から武石開発公社の事業として再開、練馬区小・中学生のお土産売店の利用増加やビーナスライン観光客の増加に伴い、施設を増改築し、釣堀やキャンプ場の併設などの整備が行われてきました。上田市合併により、武石開発公社から上田市地域振興事業団が事業を継承し、現在10名の方々が働いています。

西入さんは、食事処「棠栗」や釣堀の利用客は好調に推移しており、今後は「最近注目されているキャンプのお客さんを増やすために、棠栗キャンプ場の使い勝手を改善してリニューアルをしていきたい」、また「小さなお子さんが親子で遊んだりして、普段でも気軽に過ごせる場所を作り、地元の皆さんの利用を増やしていきたい」と話しています。

現在、武石観光センターを中心に棠栗渓谷周辺でのイベントを思案中との事です。また恒例となっている「新そば祭り」を今年も11月に開催する予定です。なお、長野県のプレミアム食事券が食事処「棠栗」にて利用可能との事です。

「安心・安全な運営をモットーに、来場者に楽しく利用してもらうよう日々開業しています。武石の皆様のご利用をお待ちしています」とのメッセージを頂きました。



武石の観光を担う観光センターの皆さん

## ■武石観光センター

営業時間：8:00～17:00

(休：月曜日、11月下旬～4月中旬)

電話：0268 (86) 2003

詳しい情報や施設の利用については、、、

武石観光センター

検索